

# 第58次南極地域観測隊(JARE58)

## 輸送オペレーションと南極での夏期設営作業

「しらせ」は、第55次隊以降3年連続して昭和基地接岸を果たし、基地の燃料備蓄量は回復した。しかし、建設用重機や内陸旅行用雪上車の更新は未だ充分ではなく、第58次隊も「しらせ」に搭載したすべての物資輸送を目指す。今年は昭和基地付近の一部定着氷が流出し、ここ数年来とは違う意味で昭和基地周辺の海氷状況は予断を許さない。第58次隊もこれまで同様に様々な状況を想定し、現地で臨機応変に対応できるよう準備を進めた。一方、夏期設営作業では昨年から開始された基本観測棟の建設をはじめ、老朽化した基地設備や痛んだ太陽光発電パネルの更新を進め、昭和基地の省エネルギー化を進める。

### 氷上輸送

接岸の如何に関わらず、重要な輸送手段である氷上輸送。昭和基地までの距離と海氷状況に応じて柔軟に対応する。接岸をはたせば、貨油をパイプ送油する。

大型ヘリコプターに搭載できない大型物資は、氷上輸送を行う



氷上輸送

接岸すると、「しらせ」の貨油タンクから基地の燃料タンクへパイプ輸送する



貨油パイプ輸送

「しらせ」搭載の大型ヘリコプターによる空輸



しらせヘリ空輸

観測隊小型ヘリコプターによる野外観測



観測隊ヘリ

### 空輸

大型物資以外は、「しらせ」搭載大型ヘリコプターにより空輸する。観測隊がチャーターする小型ヘリコプターは主として昭和基地周辺の野外観測に使用するが、状況によっては輸送にも活用する。

### 基地設営作業

第58次隊は、昨年からの建設を始めた基本観測棟の1階部分の工事を行う。この建物は老朽化した4棟の観測系建物をまとめて更新するもので、総2階建ての建物である。

昨年第57次隊での基礎工事の様子



基本観測棟基礎工事

第58次隊で建設する1階部分  
(写真は国内での仮組時)



基本観測棟1階